

2020/05/31

「試練と脱出の道」

「あなたがたの会った試練はみな人の知らないものではありません。神は真実な方ですから、あなたがたを耐えられないほどの試練に合わせることはなさいません。むしろ、耐えられるように、試練とともに、脱出の道も備えてくださいます。」

(I コリント 10:13)

アスリートの方の発言やテレビドラマなどで、「神は耐えられない試練を与えない」と言われるのを、何回か耳にしたことがあります。確かに、このメッセージは、多くの方を励まします。しかし、聖書が教えている本当の意味は少し違います。どのような意味があるのでしょうか。

■ 「あなたがたの会った試練はみな人の知らないものではありません」

多くの方は、「試練」というと、「苦しみ」「つらさ」をイメージします。しかし、ここで「試練」と訳されている「ペイラスモス」というギリシャ語は、「試み」「誘惑」という意味であり、「困難」「苦しみ」という意味はありません。聖書が「誘惑」というのは、「神を信頼するか」それとも「見えるものを信頼するか」という選択です。私たちがその岐路に立たされるのは、確かに「苦しみ」や「困難」に出会った時なのですが、「ペイラスモス」自体には、そのような意味はありません。

「私の兄弟たち。さまざまな試練に会うときは、それをこの上もない喜びと思いなさい。信仰がためされると忍耐が生じるということ、あなたがたは知っているからです。」(ヤコブ 1:2-3)

この御言葉からわかるように、聖書が言う「試練」とは、ただ困難にあったときのことではなく、「信仰が試される時」という意味です。そして、それは「人の知らないものではない」、すなわち、誰もが通る道であるということです。誰もが日常的に信仰が試されているのです。

■ 「神は真実な方ですから、あなたがたを耐えられないほどの試練に合わせることはなさいません」

多くの方が、この御言葉を「神は耐えられないような苦しみを与えない」と理解していま

すが、本当の意味は少し違います。そのように考えることは間違いではないのですが、その背景には「この苦しみを与えたのは神だ」という思い込みがあります。しかし、そもそも神は人に苦しみを与えたりしません。ですから、「神が与えた苦しみのだから、私に耐えられないはずがない」と考えるのは、根本的に間違っているのです。

「試練に耐える人は幸いです。耐え抜いて良しと認められた人は、神を愛する者に約束された、いのちの冠を受けるからです。だれでも誘惑に会ったとき、神によって誘惑された、と言ってはいけません。神は悪に誘惑されることのない方であり、ご自分でだれを誘惑なさることもありません。」（ヤコブ 1:12-13）

ここで、「試練」「誘惑」と訳されているギリシャ語は、両方とも「ペイラスモス」です。つまり、「だれでも、試練に会ったとき、神が試練を与えたと言ってはいけない。神は人を試練に合わせることはない。」という意味です。

それなのに、同じ言葉をわざわざ別の訳にしたのは、多くの人に「悪いことをした人を神が罰するのは当然である」という思い込みがあるからです。文字通り、「神は試練を与えない」と訳してしまうと、罰を与えることもないということになります。「そんなことはあり得ない」と考えた結果の解釈が、「神は試練を与えるが、誘惑することはない」という訳になったのです。しかし、何度も申し上げているように、この訳は正しくありません。

✠ 試練はどこから来るのか

神が試練を与えないのであれば、試練はいったいどこから来るのでしょうか。聖書には、きちんと続きが記されています。

「人はそれぞれ自分の欲に引かれ、おびき寄せられて、誘惑（ペイラスモス＝試練）されるのです。欲がはらむと罪を生み、罪が熟すると死を生みます。」
（ヤコブ 1:14-15）

試練とは、「神を頼るのか、見えるものを頼るのか」という選択に迫られることです。それは、「自分の欲」によるものだと聖書は教えています。すると、私たちは、自分が悪いから試練に会うのだと考えてしまいがちです。しかし、罪につながる欲は、私たちの中から出ているわけではありません。聖書は次のように教えています。

「すべての世にあるもの、すなわち、肉の欲、目の欲、暮らし向きの自慢などは、御父から出たものではなく、この世から出たものだからです。」（Iヨハネ 2:16）

聖書は、「欲はこの世から出たものである」と教えています。この世とは死の世界のことです。つまり、欲は死から生まれているのです。見えるものにしがみつこうとする「欲」が、神を頼るのか見えるものを頼るのかという「試練」を引き起こしているのです。

つまり、試練は神から来るものではなく、私たちの欲から出たものであり、私たちの欲は自分から出たものではなく、この世という死の世界から出たものなのです。

罪に直面すると私たちはつい、「自分が悪い」「人が悪い」と言って、さばいてしまいますが、私たちが見えるものを頼る罪に陥ってしまうのは、この世が有限性になり、神が見えなくなってしまうせいです。

もともと神が造られた世界には死はなく、人は神を見ることができ、神と共に暮らしていました。ところが、悪魔によってこの世界に死が入り込んだため、神と人は断絶し、この世は神を見ることができない世界になってしまいました。こうして、人は見えるものを頼るしかなくなってしまうのです。これが私たちの様々な苦しみの原因となっています。今、私たちは永遠なる神を知り、本来の関係を取り戻したわけですが、その結果、神を頼るのか、見えるものを頼るのかという試練が生じるようになりました。困難に出会うと信仰が試されるのは、「この世」つまり「死」から生まれた欲があるからです。

今、世界中がウィルスによって苦しんでいます。ウィルスはそもそも人の中から生まれたものではなく、外から持ち込まれたものです。外から持ち込まれたウィルスによって病気が発症し、人々を苦しめています。罪も同様です。外から持ち込まれた死というウィルスによって、神を頼らない、信じないという罪が生まれ、それが人を苦しめているのです。このことを聖書は、死の恐怖の奴隷という言い方をします。死の恐怖によって、人は見えるものにしがみつくと様々な欲を開花させました。様々なものを頼り、人から称賛されることで安心しようとする生き方です。その欲が、神を信頼するのか、見えるものを信頼するのかという困難を私たちにもたらしているのです。

健康や経済、人間関係等、あなたがこの世で頼っていた見えるものが行き詰まるとき、「あなたは私を頼るのか、見えるものを頼って生きていくのか」と神に迫られて、人は動揺します。しかし、それは、神が私たちを試すために苦しみを与えたわけではありません。むしろ、神は、罪をいやして、人を助けようとしておられるのです。

✕ 神は死の横暴を許可しない

「神は、あなたがたを耐えられないほどの試練に会わせない」とありますが、この「会わせない」と訳されているギリシャ語は、もともと「許可しない」という意味です。試練は神によって与えられるものではありませんが、神は、試練の横暴をだまっておき放置することは許さないとっておられます。つまり、これは、「私は必ずあなたを助ける」という神のメッセージなのです。

「私たちは、四方八方から苦しめられますが、窮することはありません。途方に与えられていますが、行き詰まることはありません。迫害されていますが、見捨てられることはありません。倒されますが、滅びません。いつでもイエスの死をこの身に帯びていますが、それは、イエスのいのちが私たちの身において明らかに示されるためです。私たち生きている者は、イエスのために絶えず死に渡されていますが、それは、イエスのいのちが私たちの死ぬべき肉体において明らかに示されるためなのです。こう

して、死は私たちのうちに働き、いのちはあなたがたのうちに働くのです。」

(Ⅱコリント 4:8-12)

死が様々な欲望を生み出すことで私たちは苦しんでいます、私たちの内には神のいのちが働いています。神は私たちの内で、私たちが死によって苦しめられることを許可しないと書いておられます。この時、神を頼るのか、見えるものを頼るのかという葛藤が試練なのです。

死の体によって苦しんでいた私たちですが、神のいのちが働いたからには、もう見捨てられることも倒されることもありません。最後は必ず復活し、倒れっぱなしになることは決してないのです。神は、絶対に私はそんなことを許可しないと書いておられるのです。これが、「神は、耐えられない試練に会わせない」という御言葉が持つ本来の意味です。私たちが人間的なイメージで捉えている以上に深く、「私のいのちがあなたがたを助けるから、私は死の横暴を許可しない」と神は書いておられるのです。

■ 「むしろ、耐えられるように、試練とともに、脱出の道も備えてくださいます。」

神はどのように私たちが倒れないように助けてくださるのでしょうか。そのために神が用意してくださっているのが「脱出の道」です。この「脱出の道」は、ギリシャ語で「エクバシス」と言い、「困難を突き破る」という意味があります。これは決して「試練を逃れる道」ではありません。試練を避けて通るのではなく、苦しみをぶち壊して、通り抜けていく道なのです。

「困難を突破する道」には、「表の脱出の道」と「裏の脱出の道」とが備えられています。困難にぶつかったとき、現実の問題を具体的に解決する道が表の道です。そして、見える現実を解決する道だけではなく、見えない不安を解決する道も神は用意しておられます。これが「裏の脱出の道」です。神は、この世でぶつかる問題を乗り越えさせてくださいますが、それだけではなく、もっと神が熱心にしたいことは、私たちの不安を解決することなのです。その道が備えられていることを忘れてはいけません。平安こそ、神が本当に備えてくれていた答えなのです。

脱出の道を通して見えない不安が解決されると、出る答えは必ず共通しています。それは、苦しみに出会ったことを感謝できるようになるということです。「この苦しみに出会ったことは、私にとって本当に幸せなことだった」と感謝できるようになるのです。

「苦しみに出会ったことは、私にとってしあわせでした。私はそれであなたのおきてを学びました。」(詩篇 119:71)

ダビデは多くの困難に出会い、信仰が試される試練に会いました。その中で脱出の道を突破し、この告白に至ったのです。あなたがこの言葉を言えるとき、あなたは脱出の道を通り抜けたということです。本当の脱出の道はここにあります。問題が解決され、「この苦しきは

私にとってしあわせだった、このことで私は、あなたを基準に生きることの大切さを知った。」という信仰に到達することが、本当の脱出の道なのです。

今、あなたの基準はどこにあるのでしょうか。見えるものでしょうか。神のことばでしょうか。神の言葉を基準として生きる、これが本当に脱出できたときに手にする答えです。私たちがこの答えに到達するために、聖霊様はいつも共にいて助けてくださいます。聖霊様は私たちの助け主なる神であり、私たちが脱出の道に到達できるよう助け導いてくださる神様です。

困難の中にあっても脱出の道を歩み続けましょう。試練を逃れる道ではなく、聖霊様と共に突破していく道を進むなら、あなたは必ず感謝と平安を手にすることができます。